

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））
難治性疾患の継続的な疫学データの収集・解析に関する研究（H29-難治等（難）-一般-057）
分担研究報告書

偽性副甲状腺機能低下症とその類縁疾患および副甲状腺機能低下症
（二次性除く）の全国疫学調査に関する研究

研究協力者：高谷里依子（千葉大学医学部附属病院小児科）
研究協力者：赤水 尚史（和歌山県立医科大学内科学第一講座）
研究協力者：大園 恵一（大阪大学小児科）
研究協力者：福本 誠二（徳島大学先端酵素学研究所）
研究協力者：杉本 利嗣（島根大学医学部内科学講座内科学第一）
研究協力者：岡崎 亮（帝京大学ちば総合医療センター第三内科）
研究協力者：皆川 真規（千葉県こども病院内分泌科）
研究代表者：中村 好一（自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門）

研究要旨：我が国での偽性副甲状腺機能低下症および副甲状腺機能低下症に関する疫学調査は前回は1997年と20年前である。近年、分子学的診断方法が進歩、また疾患に関する認識が深まっており疫学情報の再評価を計画した。2017年度は一次調査を施行した。

A．研究目的

偽性副甲状腺機能低下症および副甲状腺機能低下症患者の実態把握を行い、全国規模の客観的な指標に基づく診断基準・重症度分類を再構築し、疾患の管理指針に反映させることを最終目標とする。また、いずれの疾患も病因に基づく治療方法が未確立であり、しばしば、高カルシウム尿症や腎機能障害などの有害事象が問題となってくるが、長期的な予後や合併症（治療による合併症を含む）の実態把握を目指す。

B．研究方法

対象疾患は、副甲状腺機能低下症（二次性）、偽性副甲状腺機能低下症、偽性偽性副甲状腺機能低下症、先端異骨症、progressive osseous heteroplasia(POH)の5疾患とする。”難病の患者数と臨床疫学像把握のための全国疫学調査マニュアル”に示された方法によって医療機関を抽出する。

対象診療科は、内科、神経内科、糖尿病内科（代謝内科）、小児科とする。調査期間を2017年の1年間とする。

（倫理面への配慮）

本研究では匿名化された既存資料のみを用いるため、研究対象者の個人を特定する情報

を公開することはない。本研究は千葉大学医学部の倫理委員会で承認されている。

番号：2940

課題名：偽性副甲状腺機能低下症とその類縁疾患および副甲状腺機能低下症（二次性を除く）の全国疫学調査研究

C．研究結果

一次調査として、2018年1月に、上記方法にて抽出された病院に、上記患者の有無と症例数を問い合わせた。二次調査としては、2018年度に一次調査で「症例あり」と回答した施設に調査個人票を配布する予定としている。

D．研究発表

- 1．論文発表
なし
- 2．学会発表
なし

E．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

- 1．特許取得
なし
- 2．実用新案登録
なし
- 3．その他
なし